

■ 水道局が取り組んでいる事業

◆ 新しい配水池を作っています

山陽地区の安定給水および災害時における早期断水の解消を図るとともに、市民のみなさんに対して大切な水を貯留する給水拠点として、西見峠付近(県道 225 号)に新配水池を築造しています。

- 完成予定 平成 29 年 3 月 31 日
- 配水池容量 5,000m³ (2,500m³ × 2 池)



完成イメージ

◆ 鴨庄浄水場の施設を整備しています

新配水池築造事業とあわせて、山陽地区の給水の安定化を図ることを基本に、老朽化した設備機器の更新、監視制御システムの高度化等を図るとともに浸水被害や各地の地震被害事例を踏まえ、災害に強い施設の構築を目指して整備しています。

- 完成予定 平成 29 年 3 月 31 日



完成イメージ

◆ 水道施設・管路の耐震性向上に取り組んでいます

平成 20 年度から地震に強い耐震管を採用し、計画的に水道管の更新を進めています。耐震管は、伸縮・可とう性に加え、離脱防止機能を有した耐震継手となっており、地震等の災害時において、被害を最小限にとどめます。現在は、全国の水道事業体で耐震管が主流となっています。



耐震管の布設

◆ 災害に備えて給水タンク車を配備しています

万が一の断水等に備え、平成 27 年 4 月、加圧式給水タンク車を新たに 1 台配備し、合計 3 台の給水タンク車を配備しています。

災害備蓄用水道水ペットボトル【森響水】

地球上では水が様々な形となって循環し、そのなかで水が森林を育て、森林が水を生みだします。このことから、「水」と「森」は、影響しあい響きあっているといえます。この森林と水の関係から、水道水のペットボトルに「森響水(しんきょうすい)」と命名しました。



タンク車(2t)

▶「森響水」は、市内 10 か所の災害避難場所(1 次避難所)に備蓄しています。

🌊 山陽小野田市・宇部市水道事業広域化の検討を開始 🌊

水道施設は、市民のみなさんとの共有財産です。その施設を使って、子々孫々にまで安定した水を配当(提供)するために、市民のみなさんに水道料金として投資をお願いしています。しかし、年々人口減少が進む中で料金収入も減少しています。一方、水道施設は老朽化し、更新を迎える時期となり、ますます水道事業の経営が苦しくなりつつあります。これは、水源(厚東川)を同じくする宇部市も同様で、問題解決の手法の一つとして、宇部市との水道事業広域化を検討しています。市民のみなさんにご理解をいただくためには情報の提供が大切だと考え、市民の代表である市議会に報告するとともに、水道局ホームページに水道事業広域化について情報を提供しています。

宇部市の水道事業の現況

(平成 27 年 3 月末現在)

項目	数量
行政区域内人口	169,021 人
給水人口	167,892 人
給水戸数	73,214 戸
普及率	99.3%